

槇尾中学校区

今後の教育環境について

平成30年1月 No.1

槇尾中学校区の各小中学校においては、少子化・小規模化が今後も続く見込みです。新しい学習指導要領の実施、施設の老朽化など多角的な観点に立ち、将来に向け、より良い教育環境を考えるタイミングを迎えています。

和泉市の児童・生徒数の減少

和泉市の人口は、昭和60年から5万人程度の人口増となりましたが、児童・生徒数については、全国的な少子化傾向と同様の傾向にあり、昭和60年度と比べると2割程度減少している状況にあります。

児童・生徒数推移

	S60	H15	H29	H35(推計)
市全体(小中)	21,478	17,561	16,741	15,064
横山小	583	362	172	119
南横山小	107	71	94	81
槇尾中	428	247	158	144

※単位は(人)

今後の教育環境のあり方について

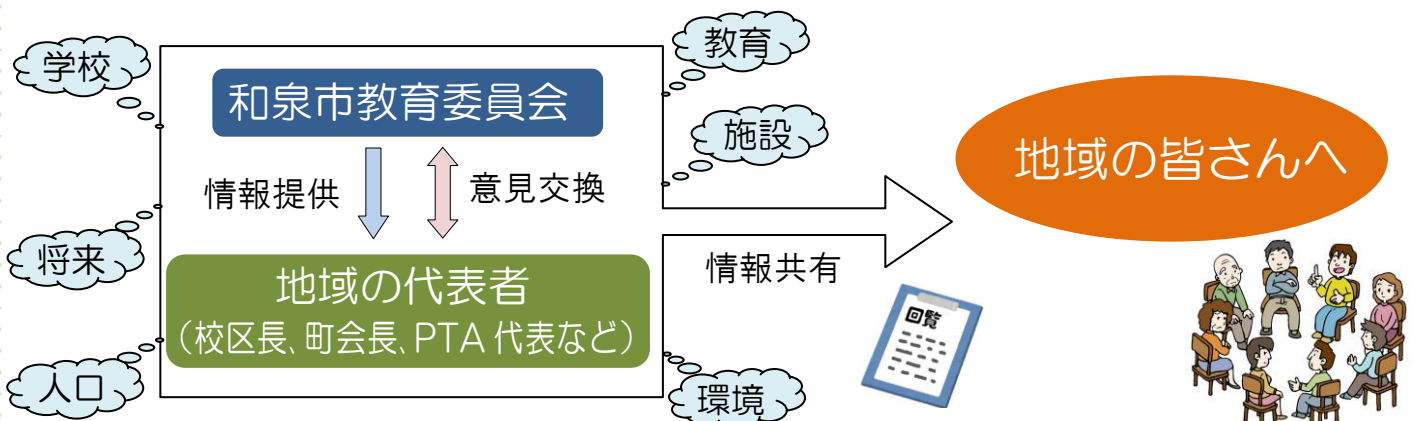
教育委員会では、学校における児童・生徒数や学級数については、コミュニケーション能力の形成や運動会などの学校行事、部活動などを勘案すると、一定の学校(学級)規模が望ましいと考えております。その考えの下に、中学校区にある全ての小中学校において8学級を下回る状況にある、槇尾中学校区と富秋中学校区の2校区で、今後の教育環境(学校配置)のあり方について、検討していきたいと考えております。

地域の声を聞かせて下さい!

小規模校のメリット・デメリットなどを踏まえ、施設一体型小中一貫校を含む、今後の槇尾中学校区のあり方について、今後地域と協議していきたいと考えております。

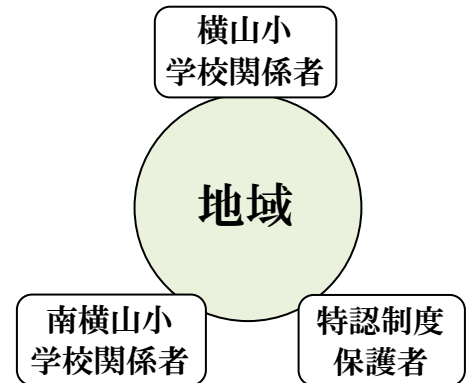
情報を地域の皆さんへ

今後につきましては、様々な情報を回覧等にて発信するなど、校区長、町会長、PTA関係者等と相談しながら、取組みを進めていきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い致します。(その中で、地域説明会の開催の時期も調整していく予定です。)



意見交換会スタート

- 榎尾中学校校区では、横山小学校校区の学校関係者、南横山小学校校区の学校関係者、そして、特認制度により南横山小学校に通う児童の保護者代表の3つの場に分けて意見交換を行うところからスタートすることとなりました。
- 主には、榎尾中学校校区の現状や他市小規模校の様子などの情報提供と質疑を行います。



第1回意見交換会を実施しました

【情報提供の内容】

- ・榎尾中学校校区各校の基本情報(沿革・就学区域・施設概要など)
- ・児童生徒数のこれまでの推移、今後の見通しについて
- ・国、府の動向について
- ・小規模校のメリット、デメリットについて
- ・南松尾はつが野学園について

※次ページ以降が当日の資料です。

◎意見交換会の内容は和泉市教育委員会のホームページにも掲載しています。

「和泉市教育委員会」で検索していただき、「教育委員会学校教育部」→「教育総務室」または、下記アドレスからご覧ください。

<http://www.city.osaka-izumi.lg.jp/kakukano/kyouikubu/soumuka/index.html>

今後の予定

- ◎3月までに、後、2回程度の開催を予定しています。その後については、追って、地域の方々とも相談しながら決定します。
- ◎2月4日に「南松尾はつが野学園施設見学会」を行います。
参加を希望される方は、1月31日までに下記お問い合わせ先へご連絡ください。(要予約)

槇尾中学校区

学校適正配置に関する 意見交換会（第1回）



意見交換会の進め方

- 1月から3月にかけては、
情報提供、情報共有を中心
- 4月以降については、
3月までの状況に応じて検討予定
(役員交代も視野にいれる必要あり)
- 4月以降のイメージは、
 - ・市としての考え方の整理、提案
 - ・地域説明会の開催(時期未定)など

最終的な意思決定手続きについて

**地域の意向等を確認しつつ、
適正就学対策審議会への諮問・答申を受け、
最終的には、議会での議決が必要。**

**※適正就学対策審議会は、
市議会議員代表、学識経験者、地域関係者等で構成**

※これらの時期は、今後の状況で決定するため、未定

1月から3月の意見交換会の予定

1月	学校情報、国の動向 南松尾はつが野学園の取組み
2月	南松尾はつが野学園見学
	南松尾小中学校移転統合の経過 他市、他府県の事例
3月	小中一貫校設置の場合の検討事項

【参考】


仮の想定として、

施設一体型小中一貫校を整備する場合、
整備に必要な期間について

- ・ 設計・工事で4～5年程度必要
- ・ H30中に意思決定したとしても、
H35、H36の開校が想定される。

⇒ 現小学校1年生が小学校卒業後となる。

意見交換会での情報提供の内容は、

- **地域での回覧** 
- **市ホームページへの掲載を通じて共有**
⇒ **皆さんも、
地域の方への情報共有にご協力ください。**

①学校情報等について

学校の沿革

学校名	沿革
横山小	明治5年 第13区分校として開校 今年で146年目
南横山小	明治6年 父鬼簡易小学校設立 入道小学校分校として開校 今年で145年目
榎尾中	昭和39年 横山中、南横山中が統合して 第三中学校として開校 今年で53年目

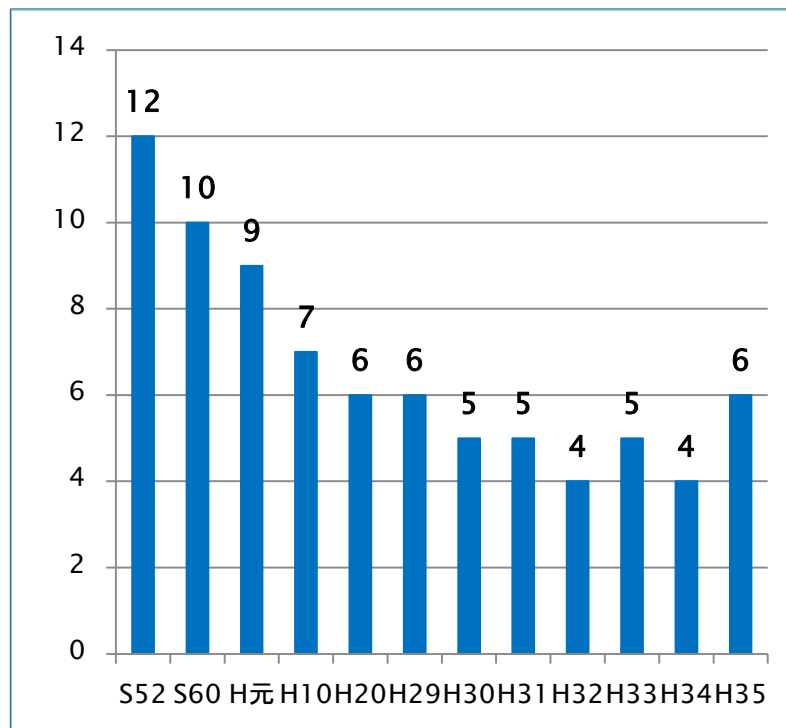
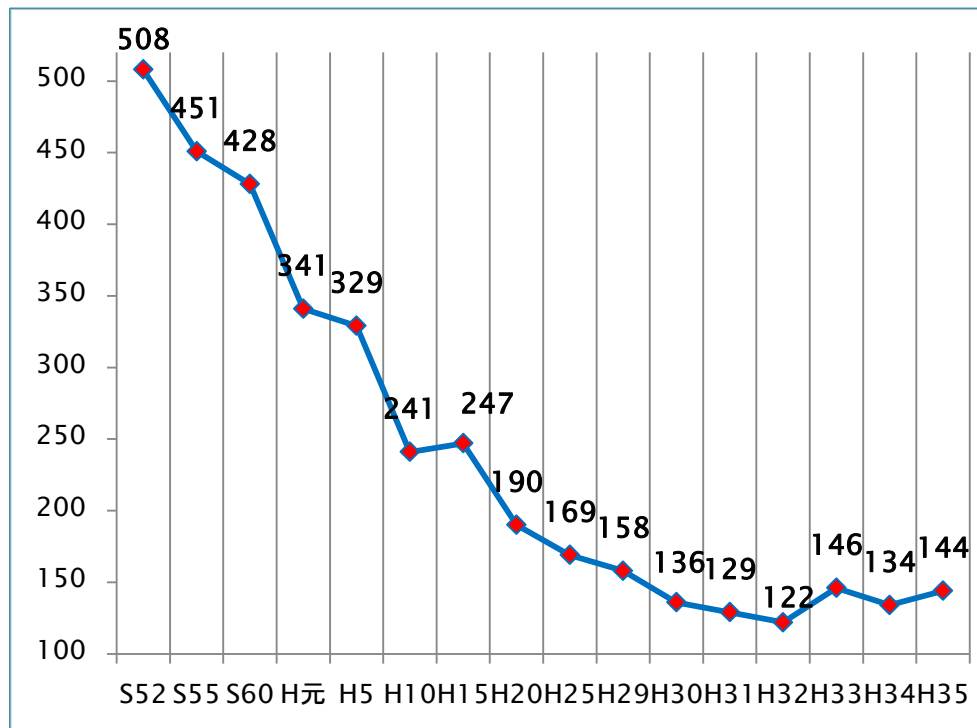
学校の敷地規模、校舎の築年数

学校名	敷地規模	築年数
横山小	13,278m ²	築44年 (体育館側校舎)
南横山小	3,720m ²	築45年 (運動場側校舎)
榎尾中	17,781m ²	築53年 (職員室・ 校長室側校舎)

※校舎により築年数は異なります。

生徒数・クラス数の推移

槇尾中

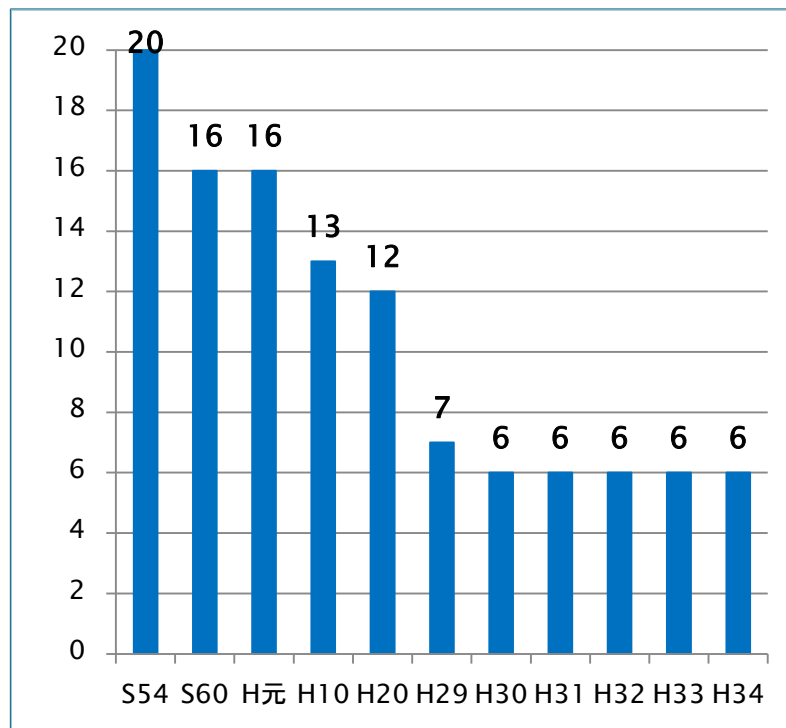
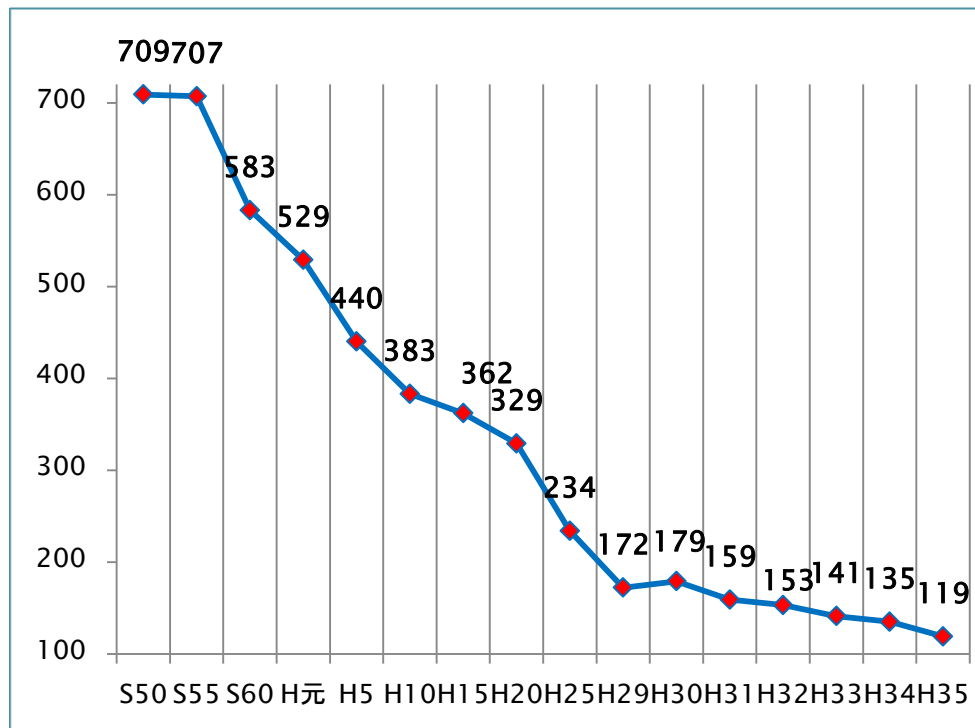


生徒数は昭和52年をピークに1/3程度に減少。

学級数は各学年4クラスから現在各学年2クラスであり、今後は1学年40人前後で推移し、単学級の学年も出てくる見込み。

横山小

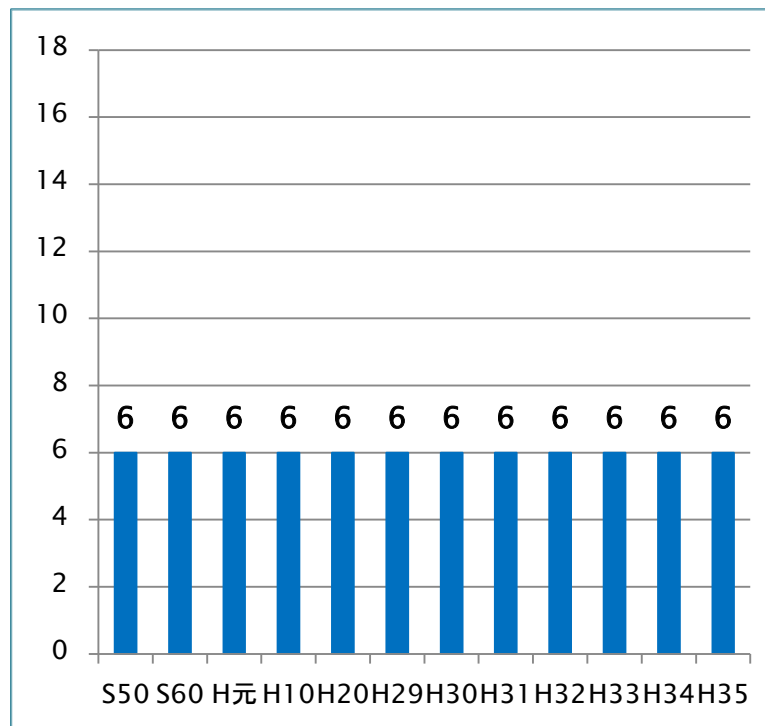
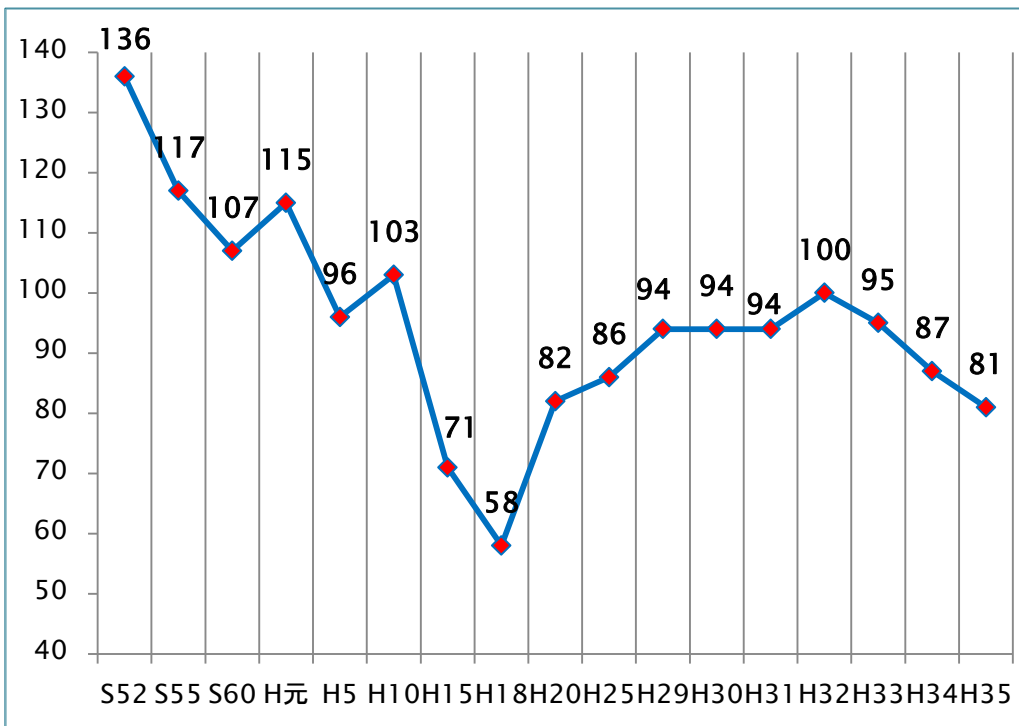
生徒数・クラス数の推移



児童数は昭和50年をピークに1/4程度に減少。
学級数は、今後すべての学年が単学級となる見込み。

南横山小

生徒数・クラス数の推移



平成18年度から特認制度を実施し、1学年20人を限度に募集。
平成29年度地元児童が27人、特認児童が67人の割合。
※平成31年度以降の児童数は特認児童の入学を毎年10人と仮定して算出。

南横山小 小規模特認校(H18～)

・目的

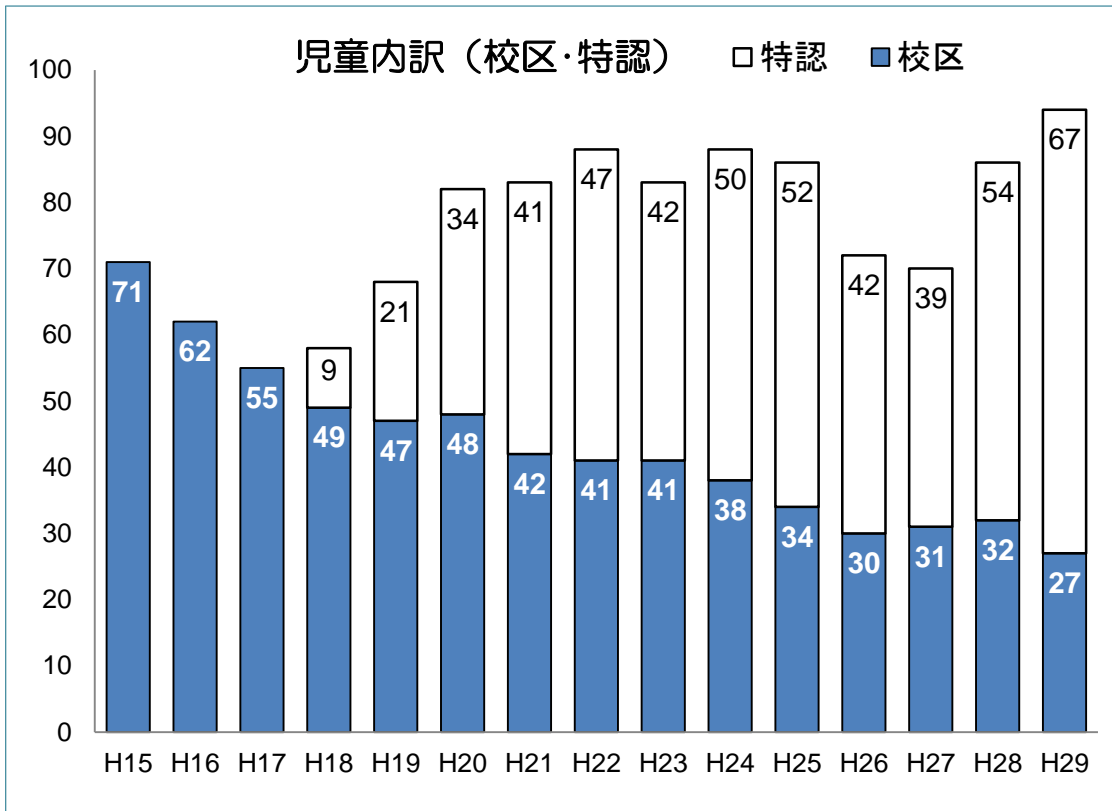
南横山小学校は、本市の南部山間部に位置し、清流と森林の緑に恵まれた豊かな自然環境と少人数の特徴を活かし、児童、教職員及び地域との密接な家庭的雰囲気の中で、特色ある教育活動を展開している。

当該校を小規模特認校に指定し、特色ある教育環境の中で子どもを学ばせたい、学びたいという保護者及び児童に対して、一定の条件のもとに既定の通学区域外からの入学や転学を認めることにより、豊かな人間性を培うとともに、学校と地域の連携や活性化などの教育目的を実現しようとするものである。



南横山小 小規模特認校

・特認児童の推移



○特認制度を利用する児童は、平成18年度に9名が入学してから徐々に増え、平成21年度以降は40～50人前後で推移。

○平成29年度、地元在住の児童は27人。

○地元の少子化と特認制度の児童の増加により、その割合の開きが大きくなっている。

○※地元児童の割合 H18 : 84.5% → H29 : 28.7%

南横山小 小規模特認校

・平成29年度の状況

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
地元	2	9	7	4	4	1	27
特認	17	12	12	4	11	11	67
計	19	21	19	8	15	12	94

・特認児童の榎尾中学校への進級状況

進路\卒業年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
榎尾中学校へ	1	1	2	4	4	0	3	7	8	5	4
地元中学校へ	0	0	0	2	1	1	3	1	2	0	0
私立・国立中学校	0	1	0	1	1	1	4	4	6	2	1
市外転出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	2	2	7	6	2	10	12	16	7	5
榎尾／計	100%	50%	100%	57.1%	66.7%	0%	30%	58.3%	50%	71.4%	80%

②国における方向性

②国における方向性

国が定める標準学級

学校教育法施行規則

「学級数は12学級以上18学級以下を標準とする。」

義務教育諸学校等の施設費の国庫負担に関する法律施行令

適正な規模の条件は次の号に掲げるものとする。

「学級数がおおむね12 学級から18 学級までであること。」

②国における方向性

「公立小中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」
平成27年1月 文部科学省 策定

全学年でクラス替えを可能としたり、
学習活動の特質に応じて学級を越えた集団を編成し、
同学年に複数教員を配置するためには、
1学年2学級以上が望ましい。

集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、
切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばし
ていくという学校の特質を踏まえ、
小・中学校では**一定の集団規模が確保されていることが望
ましいもの**と考えられています。

市内学校の学級数の状況（義務教育学校除く）

	小学校	中学校
19学級以上	8校	3校
12～18学級	7校	4校
9～11学級	—	—
8学級	鶴山台南小	—
7学級	横山小・池上小	—
6学級	南横山小・幸小	榎尾中・富秋中

まずは、榎尾中・富秋中校区にて学校適正配置の検討を行います。

③小規模校における メリット・デメリット

メリット

一人一人の学習状況や学習内容の定着状況をより把握しやすい

補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい

地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい

現学校において

- ・ 教職員が子ども一人ひとりを知っている
→ 学習状況・生活指導を共通理解でき、職員全体で細やかな指導・見守りができる
- ・ 保護者(地域)の学校教育への参加、活用が活発
→ 保護者、地域の人材が学校教育に積極的に関わり、
地域教材(産業・芸能・自然など)を活かした教育活動が充実している。
→ 地域全体で、子どもを育てる教育環境

デメリット

クラス替えが全部又は一部の学年でできない (人間関係の固定化)

クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない

クラブ活動や部活動の種類が限定される

現学校において

- ・ 教員の技量が求められる(学級経営・校務分掌など)
 - 学級がうまくいかなかった場合、クラス替えなどで転換を図れない
 - 複数の校務分掌を担当することになる
- ・ 人間関係の固定化
 - 社会性の醸成への影響
- ・ 授業において多様な意見にふれることができない
 - 思考力や表現力、判断力、問題解決能力の育みへの影響
- ・ 校外学習の費用など一人当たりの負担が大きい

【参考】

小規模校における学校教員の配置について

- 小学校では、担任以外の教員がおらず音楽や家庭科など専科指導の担当が配置できない。
- 中学校の専科指導について、専任の担当による指導でなくなる可能性がある。
- インフルエンザ等で複数の先生が休むことになると、授業が成立しなくなる。

次回以降の意見交換について

- 今回の説明を踏まえ、より良い教育環境に向けた考えを整理するために、

★ 「ここの地域は、こういった所がいい」
「〇〇がこの学校の特色だ」
などの意見があれば、ご発言ください。

- ★ 施設一体型小中一貫校を整備する場合に関して、
 - ・ 他市の状況
 - ・ 少人数、自然環境のよさを確保する方策
 - ・ 小中一貫特認校の事例 など情報提供するので、疑問に思うこと、追加で知りたいことなどの意見があれば、ご発言ください。



本日の情報提供（その2）

南松尾はつが野学園の状況



平成30年1月



義務教育学校とは

組織概要

- ・1人の校長
- ・教頭は3人
統括担当、前期課程担当、後期課程担当で役割分担
- ・1つの教職員組織で教職員の数は、同じ規模の小学校の教職員数と同じ規模の中学校の教職員数を合わせた数

修業年限 9年

ただし小学校・中学校の学習指導要領を準用するため、前半6年（前期課程）と後半3年（後期課程）の区分を確保



授業時間・休憩時間

1. 前期課程（小学校） 1 単位時間 45分
後期課程（中学校） 1 単位時間 50分
2. 休憩時間を調整し授業開始時間は合わせる
毎回、前期課程は15分休憩
後期課程は10分休憩
3. チャイムの鳴動の工夫
開始はチャイム鳴動 終了はノーチャイム
共通休憩時間の後半5分はクラシック音楽

時程

職員朝礼 8:20～

原則3分

C4TH掲示板で確認

時程表	前期課程	後期課程
登校	8:25	8:25
朝読書・朝学活	8:30～8:45	8:30～8:45
1校時	8:45～9:30	8:45～9:35
2校時	9:45～10:30	9:45～10:35
3校時	10:45～11:30	10:45～11:35
4校時	11:45～12:30	11:45～12:35
給食	12:30～13:10	12:35～13:10
昼休み	13:10～13:25	13:10～13:25
清掃	13:25～13:35	13:25～13:35
5校時	13:40～14:25	13:40～14:30
6校時	14:40～15:25	14:40～15:30
終わりの会	15:25～15:35	15:30～15:40
下校	16:00	16:00 一般生徒



特色ある取組み

(1) 5・6年生からの一部教科担任制

(2) 4年生からの定期考査

(3) 異学年交流

①全体特活動

②出前授業

③読み聞かせ

④交流給食 など

(4) 児童生徒会活動

(5) 5年生からの部活動参加

制服

前期課程(1～6年生)



後期課程(7～9年生)



- 9年間の統一感を持ちつつ、各課程の学校生活のスタイルに合わせたデザインとしました。
- ズボン・スカートは、前期課程・後期課程ともに通年素材にしています。